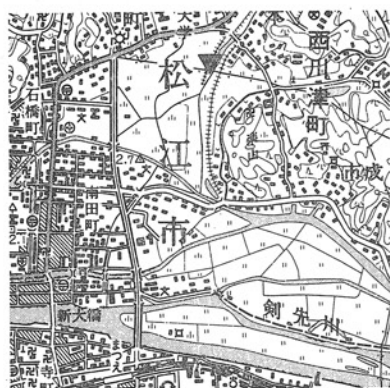


島根・タテチヨウ遺跡

- 1 所在地 島根県松江市西川津町大字橋本字堅町ほか
- 2 調査期間 一九八八年(昭63)四月～一二月
- 3 発掘機関 島根県教育委員会
- 4 調査担当者 三宅博士・柳浦俊一
- 5 遺跡の種類 遺物包含層・自然河道
- 6 遺跡の年代 縄文時代～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(松江)

タテチヨウ遺跡は松江市街地の東北部に位置する。北山山系から流れを發している朝酌川が宍道湖と中海を結ぶ大橋川に流入する一帯に沿って遺跡があり、その範囲は南北約三〇〇m、東西約五〇mである。遺跡地の地形は島根県内では比較的まとまった面積をもつ標高約一mの沖積平野であるが、享保年間に新田開発の記録がみえることから、完全に陸化したのはあまり

古いことではないようである。

発掘調査は朝酌川の河川改修に伴い一九七七年・一九八四年・一九八五年・一九八七年・一九八八年・一九九〇年・一九九一年に行なわれた。調査では弥生土器を中心に縄文時代から古墳時代前半にかけての土器・木製品・石器などの遺物のほか、炭化米・獣骨などの自然遺物が大量に出土した。これらは、主に標高〇mからマイナスイmの間に堆積した砂層、粘質土層から出土している。遺物包含層は弥生時代から古墳時代に堆積した氾濫原と推定され、弥生土器二片が当遺跡の上流約一・五kmに位置する西川津遺跡出土土器と接合できたことから考えて、出土遺物の大半は上流から流されてここに再堆積したものと推定された。

一九八八年・一九九〇年・一九九一年の調査では、以上の遺物包含層を削り込んできた自然河道が合計五条検出された。このうち一九八八年の調査で検出した第一河道から巡礼札・板塔婆が出土した。

第一河道からは土師質土器・黒色土器・備前陶器・瓦質土器・中国製青磁・李朝青磁などの土器・陶磁器のほか、祥符通宝・永樂通宝・木像・斎串などが出土している。これらはいずれも年代的に巡礼札に記された「天正十六年」(一五八八)と矛盾するものではない。

第二河道からは人形代が四点出土しており、そのうちの一点に墨

書によって女性の全身像が描かれている。これは、下端を尖らせた形で、長さ二八・八cm、厚さ〇・五cmを測る。表面には墨線画によって、深衣を着て髪を肩まで垂らした女性が、胸のやや下方で両手を組み合わせた状態で描かれている。両胸には計三個の孔があり、木釘が打たれていたと考えられる。第二河道からは他に舟形木製品などの信仰に係する遺物も出土している。須恵器・土師器などの年代から、これらはおおむね一〇世紀から一一世紀頃にかけての遺物と考えられる。

以上の遺物から、平安時代から戦国時代にかけて、旧朝酌川の水辺で水に係した祭祀ないしは行事が行なわれていたと考えられる。

8 木簡の釈文・内容

「天正十六年
三月吉日
〇三十三所順礼
円道」

「〇父母六親菩提也」

89×28×2 011

(2) 「(梵字) 若有見問老□発

(371)×38×9 061

第一河道から出土した巡礼札(1)は、上端部を山形に加工し、上部に径三mmの方形の孔を穿つ。板塔婆(2)は、平面形は五輪を表わし、表面に梵字六文字、漢字七文字を記す。

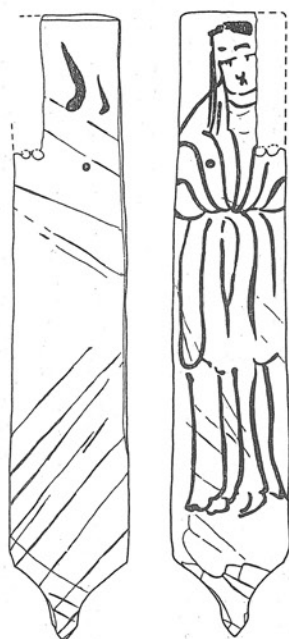
9 関係文献

島根県教育委員会『朝酌川河川改修工事に伴うタテチヨウ遺跡発掘調査報告書』Ⅲ(一九九〇年)

(柳浦俊一)



(1)



女性の全身像を描く人形代